

令和5年度 第1回羽黒地域振興懇談会 会議録

1 日 時 令和5年7月7日(金)午後3時00分～午後5時00分

2 場 所 羽黒庁舎 二階会議室

3 出席者 委員 五十嵐満委員、丸山三喜男委員、堀誠委員、加藤省二委員、土岐彰委員、
阿部良一委員、榎本光男委員、齋藤美都委員、百瀬清昭委員、小南孝子委員、
齋藤一志委員、佐藤恵委員

羽黒庁舎支所長 伊藤敦、総務企画課長 成沢結花、市民福祉課長 山口えみ、
産業建設課長 上林喜博、総務企画課長補佐 成澤紀美
総務企画課主査 藤澤弘子

本所 地域振興課地域振興専門員 齋藤眞一
政策企画課専門員 佐藤紘司

4 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ 伊藤支所長
3. 委員・職員紹介
4. 会長、副会長の選出
5. 報告
(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について
6. 意見交換
(1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の体系(案)について
(2) 羽黒地域振興計画策定(見直し)について
 - ・総合計画と地域振興計画の位置づけ
 - ・地域振興施策の全体像について
7. 市民提案型協働事業審査会
8. その他
(1) 令和5年度まちづくり未来事業について
9. 閉会

5 会議資料

- ・【参考資料1 資料1】第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について
- ・【参考資料1 資料2】第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の策定 これまでの経過について
- ・【参考資料1 資料3】総合計画後期基本計画策定全体スケジュール(案)
- ・【参考資料1 資料4】総合計画後期基本計画策定の視点について
- ・【資料1】第2次鶴岡市総合計画後期基本計画体系(案)新旧対照表
- ・【資料2】総合計画と地域振興計画の位置づけ

- ・【資料3】鶴岡市における羽黒地域振興施策の全体像
- ・【資料 4-1】市民提案型協働事業未来事業企画募集チラシ及び要領
- ・【資料 4-2】令和5年度市民提案型協働事業企画提案受付状況
- ・【資料 4-3】「市民提案型協働事業企画提案書」の審査会の流れについて

6 意見交換会要旨

- (1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の策定について (政策企画課専門員説明)
- (1) 第2次鶴岡市総合計画後期基本計画の体系(案)について 他 (羽黒庁舎総務企画課課長補佐説明)

委員より意見・質問

【百瀬会長】

ただいま、本所の方から総合計画の説明、庁舎の方から地域振興計画の説明があった。

羽黒地域の発展項目をより具体的に示した資料となります。市全体の策定の考え方も含めてご質問・ご意見をいただければありがたい。

【委員】

農業面の「耕畜連携」とは、どういう意味か。農林作物とは具体的には何を指すのか。周辺の環境整備にも取り組んでいますとなっているが、いきますではないのか。

地域の特色を「いかし」という言葉だが、「活かし」と「生かし」の2種類あるが、使い分けはどうなのか。

バスの項目で、現在運行している「市営バス」を「市バス」に変えたのはどうしてか。

資料3の「松ヶ岡開墾場の歴史的環境の保存・活用」とあるが、自然環境も含めた意味合いとなるため、現計画の「史跡内建造物」という表現とした方がよいのでは。

主な施策は、今回箇条書きにまとめた感じで見やすくなった。前のものは修飾語が多くて何を言っているのかわからないものが多かった。

【産業建設課長】

はじめに耕畜連携とは、耕は耕種農家、畜は畜産農家を指し、畜産農家から頂いた糞尿を原料に堆肥を製造し、耕種農家に提供して土づくりをするというもので、環境保全型農業も重要なテーマとなっていることから、重要なキーワードと思いあげている。

次に、農林作物については、キノコや山菜類なども広く対象に含めこの表現に変えた。

周辺の環境整備については、現在も環境整備に取り組んでいるところもあるし、今後もあるという現在進行という意味である。分かりにくいようであればどちらが良いかまたご意見をいただきたい。

【政策企画課専門員】

「いきる」という漢字の表記について、総合計画全体に関係するので、計画の作成過程の中で、確認しながら統一するようにする。

【総務企画課長】

「市営路線バス」で統一する。歴史的環境という言い方について、建造物という言葉も入れる。

【委員】

資料1について、住民が安心しての「安心」を担保するのが非常に至難の業だと思う。その表現については考えた方がよい。また、二次交通など辞書を引かなければわからないような字句については、より分かりやすい表現にした方がよい。

【委員】

羽黒地域の特産物である庄内柿やアスパラガスと記載しているが、収量が落ちてほとんど栽培している人がいない現状で特産と言えるのか。ここに書くこと自体が現状をみていない気がする。

【産業建設課長】

おっしゃる通り、アスパラガスについては、一時期、1億2千万を誇った羽黒の主力品目だったが、現在は1千万程度まで落ち込んでいる。確かにその状況からすれば特産と言えるのかというところはあるが、農協の方でも押す品目の1つということで苗の供給等を行っている。農家にアスパラガスをやっていききたいという希望を持っている方もいる。また昨年からは農業技術普及課の方にとりきり栽培という新しい栽培方法を勉強した方もいて、その提案を受けて試験的に始めたところである。特産と書いて良いかは不明だが、復活とまではいかないが、盛り返すように支援を講じていきたいと思っている。

【委員】

アスパラは50年くらいで病気により産地が減ぶというのが当たり前、それに逆らって新規投資させているのが問題と思っている。成功すればよいが、成功事例はものすごく少ないことから、全国的に産地が移っている。その波が来たと思って、産業振興するのならその辺も調べて、極力失敗のないように指導すべき。昔の夢を見るのは良いが、私は反対だ。

【委員】

私の友人にアスパラを単年で栽培し直売している人がいるが、長期だと次の世代が大変である。

ブルーベリーも特産になってきているが、今は収穫する人が高齢化し、近所に協力を仰いでいる現状である。まずは、羽黒の特産として柿とかブルーベリーとか、先程のアスパラとか、色んなものがあるので、如何にして売って地元にお金を落とすか。それが一番大事だ。

【委員】

4ページに「泉地区地域活動センター整備の検討と防災拠点としての機能強化」書いてあるが、先日自治振興会で米沢に視察に行ってきた。ほとんど作りは同じだが、泉地区地域活動センターの他との違いは、体育館やナイター設備があり、幅広い年代層や地域内外の利用が多いことである。これからも運動施設は無くさないで欲しい。現検討委員 25 名が元気で利用できるよう6, 7年後くらいを目途に、前向きに建設に支援と検討を宜しく願います。

【総務企画課長】

承った。

【委員】

今、検討委員会を立ち上げ要望書を出そうという動きのなか、4ページのコミュニティ項目のプロジェクト事業(案)に、羽黒コミセンと泉活動センターの機能集約に係る課題整理との記載は問題である。今、泉地区の人たちは、老朽化しているから新しいものに変えて、広くしたいとか、2階は危ないので1階で部屋数を多くしたいとか意見を出し合い要望書を出そうとしているときに、今から集約という言葉を出されると、その人たちにとっては、集約なら最初から集約で検討させてくれという気持ちになると思うので、今から集約という言葉を出すのはおかしいのではないかと。

【委員】

今、五十嵐委員が言ったようにコミセンと集約ということではなく、一応泉地区のという方向性で向かっており、集会場についても200人ではなく150人も入れればいいかというようなことも検討しているので、集約という言葉は消していただきたい。

【支所長】

プロジェクト事業案ということで、こちらに簡潔に書いてある。この文言については五十嵐委員、丸山委員おっしゃられた通り、少し前のめりかと思う。我々の方では、泉の皆さん方で要望をまとめているという話も伺っているし、泉だけでなく、羽黒全体のコミセンでもあるので、羽黒全体の考え方も今後捕らえていかなければならないと思っている。もう少し時間のかかる話だと考えているので、地元の方々、羽黒地域全体の方々によく話をしていきたいと思っている。

【委員】

今の活動センターの話だが、人工芝の体育館は、ほかの地区の子供たちから雨でも雪でも使えて良いと羨ましがられているため、活動センターが新しくなったり、羽黒コミセンと一緒になったりしても作ってもらえるのか。

【委員】

私の方では分からないが前向きに検討をお願いしたい。

【委員】

さっきの農業の話に戻るが、担い手の確保という点で、羽黒として力を入れる品目がはっきりしていた方が新しく参入してきた方は向かいやすいのではないかと。櫛引のキュウリ団地まではいかないが、羽黒としてこの品目をやっていこうというものがあれば、新しく農業を始めようという人も、色々な人から教えてもらいやすいと思う。気候や風土に適した収益性の高い農林作物の確立、新品種の導入とあるが、新品種に何をやるかという所までいけると、もっと農作物を出荷しやすくなる場所も考えて欲しい。今は庄内柿、アスパラ、ブルーベリーという3つがあると思うが、庄内柿もアスパラもブルーベリーも駄目になってきているのなら、新品目を示してもらえればありがたい。

【百瀬会長】

振興品目を詳しく表示したらどうだという意見だが、農協も絡むので、農協担当とも十分情報をすり合わせて下さい。

【土岐委員】

私は観光協会なので観光について話をしたい。個々の観光施設や出羽三山、手向で言えば宿坊やお寺は、観光の魅力を上げるために努力しているが、そこを繋ぐ交通が不十分。先程宮司さんから卯年御縁年の話があった月山は7月1日に開山し夏山を迎えた。路線バスについて7月は土日、8月は金土日。9月は土日祝日の運行に限定しており、平日は公共のバスでは行けない。タクシーを使えば宿泊費ほどかかるため、先日も外人が羽黒山だけ参拝して諦めて帰られた。

出羽三山めぐりで言えば、月山から湯殿山経由で下山した場合、市内に戻る足が無い。前日までにタクシーを予約すれば半額補助的なものが今はあるが、予算に限りがあるし、知られていないサービスだ。いくら行政や観光協会が出羽三山をアピールしても、そこを繋ぐ足が無いというのがネックだ。

例えば、電気自動車等の実証実験として、自動車メーカーと研究協力みたいなことを季節限定で出来ないものか。あるいは湯殿山からの鶴岡駅でも良いし、羽黒山でも良いし、結ぶバスをなんとかできないものか。二次交通に関する地域の取り組み、先進地事例等あると思うので、何か羽黒地域としても取り組んでほしい。

現計画の中にあってまた出てきたのが、老朽化した観光施設の再整備というのがあるが、具体的にどこか。いでは文化記念館の天井か。崩落したまま何年間か放置したままになっているので。他に何かあるのか。

【産業建設課長】

観光施設の再整備の件だが、いでは文化記念館、ゆぼかの両施設は建設から20～30年と経過していることからかなり老朽化しているため、何らかの修繕をこれからしていかなければならない。今般、いでは文化記念館の修繕について、主に空調設備と照明設備だが、これについて文化庁の補助が採択になった。それに基づいて6月補正予算にあげて議決をいただいた。発注の手続きをこれから行っていくところだが、約1億5千万の予算をかけ、いでは文化記念館の改修を行う。話のあった天井の方も、是非、その中でやりくりしながらできればと考えている。

【地域振興課専門員】

私の方から交通全般について話をさせていただければと思う。

コロナ禍前までは、庄内交通路線の中で黒字路線と言われていたのが、庄内空港線と月山山頂線の2本だけであった。それがコロナ禍の令和2年になって大幅な赤字に転じている。昨年度ようやく持ち直してきているが、路線ごとの利用者数の話をさせていただくと、加茂水族館線がコロナ禍前を100としたときに90～95%まで利用者数が回復しているが、鶴岡駅からいでは文化記念館までの路線については6～7割の回復、月山山頂線についてはこれから様子見ることになるが、利用者数が回復すれば元に戻すことは可能だ。ただそれも、盛んに走らせて大幅な赤字を出したという令和2年度の結果があるので、利用者数の回復を見ながら庄内交通と話をしていきたいと考えている。

【委員】

今回基本計画案なので、これから実施計画を作る際に新たな計画やプランが出ることに期待しているが、4ページの地域コミュニティの推進という中の市営バスの利用について、高齢者や交通弱者の買い物や通院などの交通手段の確保とあるのが、今後5年間でどういった形に変えていくのか教えて欲しい。

川代山を通る市営バスをみると、乗っている人がほぼ居ない。勝手が悪いからなのか、路線的に悪いのか検

話しながら使いやすいようにしていただければありがたいし、車社会で若者たちは買い物に行けるが、高齢者は買い物難民になってしまうので、それに対して今後5年間できちんと施策を打ち出してほしい。

【総務企画課長】

利用拡大協議会で検討しているが、今年度は、何が問題かアンケートを取りたいという話が出ている。路線が長くなれば乗る時間も長くなるためどこまでも走ればいいというものでもない。その辺の見極めをしつつ、どうすれば乗りやすく利用しやすいのかをもう一度検討したいと考えている。

【委員】

今回、農業に携わっている人たちの意見を聞き、様々な苦勞をしているという実態を知った。それを踏まえ変えていく施策がここに記載してあると思うが、知恵を出し合い、他の事例も含め、羽黒の中で具体化できるものを取り入れ実現させる組み立てができれば良いと感じた。

観光においても、コロナ禍により過去3年間裏切られた感があったが、ゆっくりだが復活傾向にある。人がくれば、そこに消費が生まれるわけなので、農業と連携して野菜など提供できる仕組みがあれば観光客も喜ぶのではないかと。今後、情報共有しながら、庁舎としての統一感をもって取り組んでいただきたい。

【委員】

4ページの主な施策で「地域と社福・包括による共助の仕組みづくりの推進」とあるが、鶴岡市社会福祉協議会という個別の団体を基本計画に出すのはどうなのか。実施計画ならわかるが、基本計画に載せるものなのか。別の表現はないのか。

【総務企画課長】

羽黒庁舎内には、地域包括支援センターはぐろとして百寿会の職員4名、羽黒福祉センターとして市社会福祉協議会の職員4名が配置されている。

【委員】

包括支援センターはぐろと福羽黒社センターと連携とした方が良いのでは。

【総務企画課長】

了解した。

< 審査会 >

①プレゼンテーション「羽黒町で頑張っている人を見つけ隊」

質疑概要

質問: 見学だけの想定か、体験はさせるのか

回答: 理想は事業体験もしてもらいたいが、建築業など危険な職種もあるので、体験できる事業と出来ない事業があるかと思う。

質問: これは年に何回の計画か。

回答: 事業所によって繁忙期があるので、今後の打合せのなかで検討する予定。複数年にわたる事業となるの

が好ましい。そうなれば周知も図られ、認知もされる。根づいていけば一番良い。

質問: 学校行事としてやるのか、それ以外でやるのか。教育委員会等も絡んでくるとなかなか難しいと感じるが、最初の声かけをどうするのか。

回答: 出来れば中学生や小学校高学年を対象に見学してもらえれば一番よい。今後庁舎の方と話して、業種別に分けるか、年齢別に分けるか相談する。今回はあまり明確にしすぎると狭くなるので、ざっくりとした感じで提出した。煮詰めれば煮詰めるほど対象が狭くなる。

②プレゼンテーション「創造の森を活性化する会」

質問: ライトアップ期間は1週間から10日間くらいか。ホームページには載せて宣伝しているのか。

回答: 庁舎から今年は1週間で止めてくれと言われ1週間でやめた。去年も今年も PR はすると言われている。

質問: 景観条例をよく知らなくて申し訳ない。独自に実行委員会を作ってやったのは非常に素晴らしいと思う。具体的にはドローンによる動画の作成との事だが、ホームページにあげるのか。

回答: YouTubeでも良いと思っている。

質問: 季節限定でクローズアップするのは良いと感じるが、地域の実行委員はやる気はあるか。

回答: 企画団体として年間を通して広場を使ってイベントをしたいと個人的には思っている。要望としては、広場の使い方や野外ステージと配電盤の使用のルールなどを整理していただき、使いたい人に対しての配慮してほしい。桜ヶ丘の風景は、出羽丘陵地で他のところにはないものがある。高低差が徐々に上がっていくということで、満開の桜と庄内平野が見えるというのは感動する。他では見られない景観の地区であることを多くの人に伝えたい。

③プレゼンテーション「手向景観整備 証:プレート 製作事業」

質問: プレートは家のどこにはるのか

回答: 見える位置に景観を邪魔しないようにはってもらう。

質問: 7,580円で出来るのであれば、半分くらい自己負担するつもりはないのか。

回答: 今回補助金を受けるということで事業を計画した。補助金は他にもあるが、これに手を上げないわけにはいかない。まずこれから着手したいという考えだ。

質問: 手向地区は色々なところに手を挙げてやっているイメージだがどうか。

回答: 何もやらなければ廃れていくばかりだ。5年後には千人を切ると言われている。10年後には900人を切ると。ここで何かしなければ、どんどん下降していくばかり。せつかくお客さんが来る場所だから、我々が努力してなるべく緩やかにしていきたい。

質問: 既存のものと新しいもので今回40万だが、今後整備していけば増えていくのか。

回答: 行政側から令和6年度終わるという話を聞いているので、それを見込んで55件だ。今後増える要素は、そう沢山はない。自己負担もあるので、自己資金が無いとやりたくてもやれない事業だ。中々全員が手を上げるといことにはならない。

意見:今までのいろんな事業をやってきて、それを表示するのは良いアイデアだと思う。どこの地域もどんどん人口が減る状態だと思う。何かして活性化して人を呼ぶ。交流人口を増やす。それに結び付けるのには良いと思う。

<その他>

資料に基づき説明…意見なし

【委員】

先程の話の続きだが、羽黒は観光と言っているわりには観光地が携帯もつながらない。通信事業所に連絡すればアンテナ立ててもらえるので、これを要望するのが一番ではないか。Wi-Fiを整備しろという話ではなく、通常の通信ができるようにするのが最優先。

【委員】

観光地にはQRコードで情報を発信することが出来るところが多いが、羽黒にも導入できないか。
県の事業に参加する際に、市のマイクロバスをもっと簡単に利用できないか。市の代表として出席するのだし、午後からの会議だとどこかで食事をしなければならない。ETCや運転手費用を団体負担でも良いので、もう少しマイクロバスの利用規則が緩くならないか。市内だけでなく、他所に行くときに借りやすいようにしてほしい。

以上。